



日 口 交 流

発行 : 特定非営利活動法人 日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page <http://www.nichiro.org>

〒105-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax : 03 (5563) 0752



ロシア語現地学習会 - 点をつなぐ

藤本 信義

ロシア語検定の受験について検索していた時に「夏季現地ロシア語学習会」の募集に出会った。30年勤務休暇を何に使うか考えていたところで期間もびったり合う。家内の後押しもあり参加を決めた。

ところでどこの書店に行ってもロシア語の語学書は多くはない。昔はさらに少なかった。少ない中で手元にある一番古い本がNHKロシア語入門と博友社ロシア語辞典-共に昭和56年発行版-だ。大学入学の年でソ連はまだ鉄のカーテンの向こう側だったが、宇宙工学の資料を原語で読みたいと思ったか、偶然興味を引かれたのか動機はよく覚えていないが、第二外国語でもない語学なのに入門書、カセット、辞書と3点セットを揃えて意気込みだけはあったはずだが、独学では難しかったのか第4課ぐらいで早々と挫折したのが書きこみに残っていた。

そのソ連がロシアとなり、宇宙開発は競争から協力の時代になって国際宇宙ステーションが生まれた。初めてのロシア出張では「スタンダード40」で基本表現だけ覚えた。もっとも何とか通じたのは、これいくらですか、高いです、まけてください、ありがとうございます。

宇宙での協力が増え、モスクワやカザフに何度も出張し、自分の本棚にはロシア語やロシア事情に関する本が大分増えたが語学はさっぱり上達しない。会話力向上にはアウトプットの機会が必要だと感じていたところに出会ったのがこの学習会のお知らせだ。新たに宇宙基地が建設されている極東での開催に期待を膨らませ出発の朝を迎えた。

成田からわずか2時間のフライトで到着したハバロフスクは思いの外暑かった。大学の寮が立ち並ぶ風景は筑波大学の学生宿舎のあたりと変わらない雰囲気だ。この寮で20代から70代までの7名の参加者と一緒に過ごした。若い参加者からは時代に適応した知識や行動力、年長の方からは経験に基づく深い見識を習い楽しい時間だった。

午前中は授業でみっちりしぼられ午後はエクスカージョンと



いう繰り返しの中、日本の喧騒な情報から隔離された時間は快適で貴重な経験だった。

授業は2コマ×5日で10コマ、リスニング&スピーキングの授業に加え、スライドを使ってハバロフスクや極東の事物について学ぶ授業、音楽を使ってロシア語のリズムと発音を学ぶ授業

の3種類が用意されていた。背伸びして中級クラスに入ったが実力者ばかりの中で四苦八苦、あきらめずに続けられたのは、熱心に指導してくれた先生方のおかげだ。音楽クラスでは最後の回で各自好きな歌をやることになり私はステンカラージンを選んだ。長い歌詞にもかかわらず歌詞カードも用意していただき、歌を楽しんだ。聞き取り、発話、発音、すべて自分の実力では厳しく十分にできなかったが、その分多くの課題を発見できた。

午後のイベントの中で特に印象的だったのは、総領事館訪問、現地の日本語学習者との交流、バルティカビール工場見学のことだ。総領事館では同市の在留邦人がわずかに五十名ほどで日本との年間の行き来がそれぞれ五千人程度という少なさにおどろいた。日本語学習者との交流では、お互いに初心者の抱える「なかなか日本/ロシア語が話せない!」という共通の苦しきを感じ一方、SNS、動画、翻訳などでスマホが強力なツールであることも再確認した。

バルティカビールは20年前の初めての出張の折「ビールを番号で区別するのはソビエト的!」と勘違いをしていたのだが、実は誕生して20数年の新しいブランドと知って驚き、試飲会でそれぞれの味の違いを楽しんだ。

あっという間に特別な時間は終わってしまったが、38年前の夏の日在大学書籍部で1冊のロシア語テキストに出会わなければここに来ることはなかっただろう。ロシアとの縁がこれからどこに繋がって行くのか、引き続きその景観を楽しんでいきたい。開催にご尽力いただいた交流協会の皆様、そして楽しい一週間を共に過ごさせていただいた参加者の皆様に心からの感謝を申し上げます。